

次号の特集予告

284 巻 10 号(2023 年 3 月 11 日発行)

神経眼科の最前線

企画：石川 均(北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻視能矯正学研究室)

- ・抗アクアポリン 4 抗体と抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク抗体の発見と光干渉断層法の進歩によって、多発性硬化症による視神経炎は診断法、治療法ともに大きく変化した。
- ・両眼性複視を訴える症例の多くは、眼窩内と眼球周囲に存在する結合組織であるブリーの異常が原因となっていることが判明し、“sagging eye syndrome”として注目されている。
- ・本特集ではこのように神経眼科の最前線にフォーカスを当て、各分野のエキスパートの先生方にまとめていただく。